

様式3 **令和6年度 小金井市立小金井第四小学校 自己評価まとめ**

学校教育目標 人権尊重の精神を基本として、広く国際社会に生きる人間として、心身ともに健康で生涯を通して学び続けることのできる児童の育成を目指す。

つよ く かしこ く あたたく

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】○子供が「今日も登校してよかった」と実感できる学校 ○「チーム小金井四小」の力を集結し、主体的に課題を解決していく学校 ○保護者・地域が、「学校に足を運んでよかった」と思ってもらえる学校
- 【目指す児童像】○心も体もたくましい子 ○よく考え実行する子 ○思いやりのある子
- 【目指す教師像】○子供一人一人を大切にする教師 ○その子らしさを最大限伸ばす教師 ○一人一人に適切なかわりをする教師 ○全体の奉仕者である教育公務員としての自覚と使命を果たす教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 【成果】全国学力・学習状況調査の結果を分析し、本校児童の課題解決に向けた授業改善推進プランの策定及び授業実践を行った。ICT機器の授業活用も進み、授業変革を行うことができた。
- 【課題】生活指導面において教員間での認識にずれがある。また、安全指導面で繰り返しの徹底ができていないことがある。今後は、全教員で同じ指導を組織的に行うための本校のスタンダードづくりを進めていく。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
授業変革の推進	・「授業改善推進プラン」を具現化した授業実践を全教員年間1回以上公開する。複数の教員で参観と振り返りを行い、授業変革を推進する。	3.3	3.4	全教員の授業公開は実施できたが、授業改善推進プランに基づいた振り返りはできていない。今後は、全国学力・学習状況調査の結果を基に作成した授業改善推進プランを実践した成果を検証し授業改善を図る。	3.3	3.3	全教員による授業公開を年間1回以上行うことができた。授業改善推進プランの実践を学期ごとに振り返り、学力向上に向けた改善に取り組むこともできた。しかし、依然として書く力の育成に向けた十分な授業改善が進んでいない。次年度以降は、国語を校内研究教科に定め児童の学力向上に努める。
	・学年間でデジタルコンテンツを共有した授業実践を行い、個の学びの時間確保に努める。 ・毎月1回夕会にて、デジタルコンテンツの評価と振り返りを行う。	3.2	2.8	デジタルコンテンツを活用した授業実践が進み、昨年度と比較すると活用頻度が増加している。しかし、児童の個の学びにおける活用は学級ごとに差がある。今後もデジタルコンテンツの活用について研修を行うと共に、評価と振り返りを行っていく。	3.3	2.7	ICT機器及びデジタルコンテンツを活用した授業についての情報共有を図り、授業での有効活用が進んでいる。しかし児童の学習場面での活用の満足度は十分とは言えない。今後もICT機器及びデジタルコンテンツの活用実践を重ね有効活用していく。
子どもの権利の尊重	・学期1回教員研修において、「いじめ防止基本方針」、「小金井市子どもの権利に関する条例」を活用する。 ・教員も児童も人権に配慮した言葉遣いに努める。	3.5	3.2	児童は、子供の権利に関する条例があることを知らないと答えた児童が20%を超える。様々な学習の機会に伝えていく。また、6年生の子供オンズパーソンによる授業、ユニセフ募金の機会を活用する。	3.5	3.2	「いじめ防止基本方針」、「小金井市子どもの権利に関する条例」について、校内掲示や授業での活用を促したが、教員及び児童の認知度は変わらなかった。今後は、ふれあい月間における取組の中で、子供の権利に関する条例を繰り返し周知していく。
	・学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を実施する。 ・相談シート、相談窓口等の相談体制を朝会や校内掲示等で周知する。	3.6	3.2	学期1回のいじめ防止授業は計画的に実施している。10%の児童が相談窓口を知らない事から、今後も校内掲示や朝会での周知を継続し相談することの重要性を伝えていく。	3.6	3.2	学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を全学級で実施することができた。児童、保護者には、困った時の相談窓口を繰り返し周知した。しかし、相談体制についての保護者の満足度は高くないことから、個人面談の充実も含めた相談しやすい校内体制に努める。
地域連携の推進	・地域コーディネーター会議を定期的に開催する。 ・現存の活動について見直しを行い、持続可能な取組を提案する。	3		・地域コーディネーターと定期的に打ち合わせを行った。 ・新しい地域学校協働活動1件(小さな田んぼ)、学校支援ボランティア1件(清掃等)について、教員の声を集約しながら地域コーディネーターに依頼し協力することができている。	3.1	3	・今年度より、地域コーディネーターが3名になり、それぞれに役割を分担して学校支援をしたことで、学校を核とした地域と学校保護者との連携が進んだ。 ・PTA本部役員と地域コーディネーターが共に活動することで、PTAの負担軽減や地域との連携が進んでいる。今後も、地域の防災活動をはじめとした地域学校協働活動への保護者の参加を促していく。
	・地域学校協働活動と連携して、子供の活動の充実、支援者の満足度の視点で組織づくりを行う。	2		・地域未来塾の開設1件(夏休みはやってみ四)に向けて、場所の確保や広報活動等で学校ができる取組を行った。今後も子供や支援者等の声を集めながら、子供の居場所づくりを地域コーディネーターと共にやっていく。	3.3	3.1	・今年度から地域未来塾が発足し、長期休業期間に学習支援や生活リズムを整える活動を行うことができた。 ・地域学校協働活動「小さな田んぼ」が児童、保護者から好評だった。地域の専門家を招へいし、子供と保護者が共に豊かな体験を行うことができた。
特色ある学校づくり	・学習指導のスタンダードを提案する授業を、年間1回以上公開する。 ・生活指導のスタンダードを日々の生活指導で実践する。	3.2	3.4	・全担任による授業公開は、2、3学期も進めていく。その際に、学習規律を促す授業の進め方を個々の教員に提案させる。 ・昨年から全校で実践している「足 廊下は右側を静かに歩く 上履きはきちんと履く 上履きに名前を書く 履物はそろえる」を継続する。	3.3	3.3	・国語、算数、道徳について、本校の研究を深めた教員の授業を全員で参観し、主体的な学びを促す授業改善について校内研修を行うことができた。 ・全教員が、安全な学校生活について同時期に繰り返し指導することができた。今後も、共通した生活指導を行っていく。
	・資源ごみ分別、ごみ削減など、児童の主体性を促す活動を継続する。 ・保護者・地域と連携した取組を継続するとともに、家庭での実践を促す。	2.9	3.2	・環境教育について、教員側は児童に意識させる実践が十分にできていない。今後は委員会や学級活動の中での実践を進める。 ・学校便りに、6年児童の落し物実行委員の活動を紹介した。物を大切に、持ち物に名前を書く習慣を家庭と連携して実践していく。	3	3.2	・学期が進むにつれて、資源ごみの分別、給食の残りを減らす呼びかけなど、児童の主体性を促す活動を行うことができた。 ・ハチドリプロジェクトについて、保護者・地域への活動の広報や周知が不十分であったため、分からないの回答が高かった。児童の活動を発信していく。
	・週1回の朝外遊び、休み時間の外遊びを推進し、運動習慣の定着を図る。 ・長縄チャレンジ、短縄週間、持久走週間において、目標達成に向けて努力する習慣を身に付けさせる。	3.2	3.4	・長縄チャレンジは、学級ごとに目標をもって取り組んでいる。今後、短縄週間、持久走週間を実施するので、引き続き体力向上の大切さを伝えて、目標達成に向けた励ましを行っていく。	3.3	3.3	・本校の特色ある教育活動として、週1回の朝外遊び、休み時間の外遊びを推進し、運動習慣の定着を図ることができた。 ・15%の児童が目標を設定して運動に取り組んでいない。振り返りを重視して、目標の達成感を育む活動を行っていく。
	・HPは週1回以上の情報発信を行うことで、HP閲覧を推進する。 ・行事等の運営(案内、受付、アンケート回収)に、ICT機器を活用する。	2.8		・HPは毎週更新しているが、教職員が学校便りやHPを読んでいない現状があるので、声掛けをしていく。 ・学校公開の受付とアンケート回収に、ICT機器を活用して効率化を図った。今後も継続する。	3.2	3.3	・特色ある教育活動はHPに週1回以上掲載することができ、情報発信については高い評価を得た。 ・行事等の運営や配布物の削減を進める手段として、ICT機器の活用が進んだ。今後は、双方向の発信を検討していく。